

(福) さくらゆき

岐南町・福祉

従業員数 / 男性41名 女性141名 計182名 ※令和5年11月現在

エクセレント
POINT

- ①「働きやすい」を実現できる多様なシフトパターン
- ②職員の新たなステージへの「挑戦」を支援
- ③職員の声から広がっていく法人の未来



障がい支援副主任として活躍中の職員。障害部門に限らず法人の未来のためにリーダーシップを発揮している。

職員の声が上がる。職員キャリアアップ支援にも力を入れており、次のステージへ挑戦する職員が多い。介護福祉士の資格を活かし、障害者多機能型事業

高年齢・障害・児童と幅広く福祉事業を運営している社会福祉法人さくらゆき。職員の働き甲斐を重視し、それぞれのライフスタイルに合わせて力を発揮できるよう、シフトは60パターン以上、非常勤職員の勤務は週1日、1時間から可能となっている。家庭生活を大切にしながら働くことができ、育児との両立を図る職員からは、「家庭と仕事の両立を支援してもらい心強い」「子どもの行事や急な発熱などのお休みが取りやすく助かっている」との声が上がる。

働きやすい環境を整え、常勤登用を積極的に推進

所もみじの舞の生活支援員に非常勤職員として入職した職員は現在、障害支援副主任として常勤で働いている。障害のある方の「働きたい」を支援するため、元々製麺作業のみが中心だった障害者就労継続支援B型作業所でのパン製造事業を提案。職員全員で協力して試作を重ね、2023年5月には「駅前のぱん屋さんふわり」をオープンした。障害のある方が元気に働きながら地元の方と接する場となり、「新規事業にやりがいを感じている。2人の子どもを育てながら働いているので大変なときもあるが、非常勤で働いていた時より時間の使い方を工夫できるようになった。責任ある業務を任せてもらい、より楽しく仕事を



2023年5月にオープンした「駅前のぱん屋さんふわり」。焼きたての食パンは耳までふわふわだと好評。笑顔が溢れる地域交流の場となっている。

他にも特別養護老人ホームさくら舞の看護師2名が非常勤から常勤へ登用されている。「はじめは家庭やプライベートとの両立が出来るか不安だったが、有給休暇もしっかりと取れる環境なので無理なく勤務ができています。23年8月には特別養護老人ホームさくら舞の本館がオープンし、看護師の仲間も一気に増えたので、先輩職員として後輩職員を育てていきたい」と次の目標も明確に持ち業務にあたっている。施設が増え職員も大幅に増員した現在の課題は「ダイバーシティの実現」。ジェンダーレス・LGBTQの方々など多様な人材が活躍できるように職場環境を整備していく。



常勤になり就業時間が長くなったことで、今まで以上にご入居者に寄り添って。看護師としての仕事にやりがいを改めて感じている。

医療・福祉